

# 「授業改善のための学生アンケート」2023 年度後期 顕彰授業について

2024 年 4 月 26 日

白百合女子大学 FD・SD 推進委員会

「授業改善のための学生アンケート」は 2010 年度より実施し、2017 年度からは集計結果を活用した顕彰制度を導入しています。アンケートの結果は個々の授業やカリキュラム改善に役立てられているほか、高評価を得た授業を公表し、その授業の優れている点を大学全体で共有しています。なお 2022 年度より 2 年間で全科目のアンケートを実施することとし、2023 年度は履修者数が概ね 25 名以下の授業についてアンケートを実施いたしました。

2023 年度後期の結果は以下のとおりです。顕彰された授業における工夫等を追って公開する予定です。授業のあり方は授業の数だけありますが、顕彰された授業における工夫を知ることにより、よりよい学びのためのヒントが得られる機会になればと願っています。

## 2023 年度後期

### 「韓国語（中級）B」丹羽 裕美 先生（文学部国語国文学科非常勤講師）

（通年月曜日 3 限）

### 「児童英語教材研究」森 真理子 先生（文学部英語英文学科非常勤講師）

（後期木曜日 3 限）

#### 白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の目的（実施要領より抜粋）

- ① さまざまな角度から学生の反応・実態を知ること、個々の授業の授業内容・教授方法等を、教員自身が見直し改善するための材料を提供する。
- ② 設備や機材、資料など、学習に適した環境を大学がどの程度提供できているかを測定し、これを改善していくための材料を得る。
- ③ 学生が学びたい内容を適切なレベルできちんと教授できているかを知り、大学全体、あるいは学科や学年ごとのカリキュラム内容を、必要に応じて改善していくための材料を得る。
- ④ 科目に対する学生の意欲や、授業時間外での学習の実態を把握することで、カリキュラムが想定している努力を学生が傾けているかを測定し、必要に応じて改善の方法を探るための材料を得る。
- ⑤ 学生に対して、自らの学習のあり方を見直し、大学での学習をより実りあるものとするための材料を提供する。

#### 白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の集計結果を活用した顕彰制度

##### [実施方法]

- ① 実施時期は各学期末とし、前期末は前期科目、学年末は後期科目と通年科目を対象とする。
- ② 集計の単位は授業毎とする。学部科目と大学院科目を区別しない。
- ③ 集計する設問は、以下の 7 項目（項目毎の平均点の合計/35 点満点）とする。
  - Q6 教員の説明はわかりやすかった。
  - Q8 教科書や配布資料など、教材は適切だった。
  - Q9 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切だった。
  - Q13 この授業の目的や到達目標を十分に理解できた。
  - Q14 この授業に主体的に取り組むことができた。
  - Q15 この授業の内容に興味を持つことができた。
  - Q16 この授業の内容を十分に習得できた。
- ④ 顕彰対象は当該年度のアンケート実施対象授業のうち、6 名以上の回答が得られたものとする。
- ⑤ 顕彰対象は各学期第 1 位の授業とし、その授業の担当教員へ表彰を行う。
- ⑥ 表彰授業・担当教員名は、大学 Web サイトにて公表する。

##### [実施主体]

白百合女子大学 FD・SD 推進委員会

以 上